

令和5年度 樹祭によせて



第37代校長 吉田 重樹

Reality。生きづらい今を生きる僕たちの切実な叫びが集約されている言葉だ。インターネットをはじめとした仮想空間やAIの跳梁跋扈する現代だからこそ、リアルを充実させなければならない、確かに生きていくために。

さあ、いま、福島高校生一人ひとりがそれぞれの思いをカタチにしよう。汗をかき、いらつき、時に流す涙のその先に、僕たちが生きるべき本当の世界が、リアルがある。そのリアルを実現し、自分の全感覚で体感した時、僕たちがこの仮想と現実の混交した世界を確かに歩いて行ける力を手にするはずだ。

「Make the ideal a reality」の旗の下、最高にリアルな樹祭を作ろう!!

樹祭実行委員長 坂田 麻紘



思い描いた理想を形にすることを諦め、挫折した経験はないか。部活動の大会や音楽コンクール、そして夢。目まぐるしく変わるこの世の中で私たちは、日々様々な思いを抱えながら生きている。産声をあげた時には、諦め方など知らなかった私たちは、今や当たり前かのように「どうせ無理だ」「到底できない」などといった言葉を使ってしまっていないだろうか。そんな絶望から抜け出すため、活路を見出すために私たちは立ち上がり、もがこうと努力する。行事もそうだ。ネットで流れる華やかな文化祭に憧れを抱き、限界を感じてはいないだろうか。

忘れないでほしい。目に焼き付けてほしい。今この瞬間はいずれ過去となり、思い出と化す。手を抜かず、全身で楽しんでほしい。やがて樹祭は語り継がれ伝統へと変わる。心の準備はできているか。青春を彩る術はここにある。

第74期生徒会会長 小城 亜羽瑠



ようやく、待ちに待った樹祭がやってきました。福島高校が創立100周年を迎えたこともあり、樹祭が始まる前にもかかわらず、様々な変化が見られました。実行委員会では、部門ごとに分かれて、一から計画を立て、それぞれの仕事に取りかかっていました。委員だけでなく、各クラスからもすごい熱気が感じられました。早期から本格的にクラス展示のテーマ、準備物、費用について真剣に話し合いを重ね、先生方にもアドバイス頂くこともありました。夏休み期間中も準備する生徒がいました。生徒会は、樹祭の先を見据えた大きな一歩を踏み出すため、全校生徒が楽しめる企画を考えました。今後の行事は、能動的から主体的へと移り変わっていきます。時には、仲間と意見が食い違うことやすれ違うことがあると思います。ですが、終わった後仲間と共有する達成感や、自分自身が行事を通して身につけた力は、何ものにも代え難いです。樹祭を通してより力をつけ、次に繋げていきましょう。今日の樹祭のために、大勢の人が協力してきました。それぞれの出し物は、福高生の個性が輝くものになっているでしょう。ご来場の皆様、先生方、私たち生徒全員で楽しんで、素晴らしい樹祭を作りあげましょう!